



# 特集

## 真心を込めたサポート 「新緩和ケアセンター長を迎える体制へ」

緩和ケアとは、主にがんの治癒を目指した積極的な治療の効果が期待できなくなつた患者さまに対し、体の痛みや心の苦しみを和らげ、有意義な生活をお送りいただけるよう援助するアプローチです。

当院では現在、麻酔科指導医、ペインクリニック専門医2名、看護師19名（緩和ケア認定看護師2名、ELNEC-J修了看護師18名）、ソーシャルワーカー、薬剤師、管理栄養士などの専門スタッフがチームを組み、末期がん等の患者さまを中心ともにサポートする体制が整っています。

本年3月末で天真爛漫な長岡美妃先生が退任、4月より眞鍋治彦先生を緩和ケアセンター長に迎え、ダンディな眞鍋先生へとバトン

タッチされて、新たな体制でスタートしました。眞鍋先生が、患者さまやそのご家族と丁寧にお話されている姿をよく見ます。その真摯な姿勢と優しい笑顔で、患者さまはもちろんのこと、スタッフにもファンが急増しています！

新たな体制のもと、患者さまの辛い症状の緩和に努め、家庭的でころのこもったケアを提供できるようスタッフ一丸となり取り組んでいます。患者さまやご家族の一日一日の時間を大切にしながら、その思いに寄り添い、その方らしい時間を過ごしていただけたよう、年間を通してのイベントやレクリエーションの充実も図っています。

今回は、その内容の一部をご紹介致します。

4月1日よりAGI-H秋本病院に勤務しています眞鍋です。1980年に熊本大学を卒業し福岡大学麻酔科学講座に入局しました。田中経一救急部教授からはからは気管挿管のイロハ、小児麻酔、呼吸器外科麻酔など麻酔学の基礎をご指導頂きました。故・檀健次郎教授からは帶状疱疹、三叉神経痛、慢性頭痛、腰痛、がん性疼痛など各種の疼痛疾患を通じてペインクリニック診療をご指導頂きました。ご指導により「連続的硬膜外ブロックによる急性帯状疱疹治療」で博士号を得ました。

1993年より麻酔科部長として赴任した北九州市立医療センターでは、当初はのんびりと仕事をしておりましたが、各種内視鏡手術の開始、小児外科、心臓血管外科、脳外科の開設により年間4000例余りの手術が行われるようになりました。ご存じのように麻酔科医の仕事は、手術麻酔、疼痛・緩和医療、救急・災害医療、臨床研修医教育、医療安全と多岐に渡っています。医療センターでは同僚の麻酔科医とともにこれ

機関と連携させて頂くことが重要と考えています。よろしくご指導、ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。

### 新緩和ケアセンター長よりご挨拶

眞鍋 治彦  
緩和ケアセンター長



### 秋本病院の緩和ケアの内容を一部ご紹介！

#### 誕生日

入院中に誕生日を迎える患者さまへ、メッセージカードやケーキなどでお祝いさせていただいている。最近では、スタッフ手作りのくす玉が登場し、患者さまもとびっきりの笑顔に！



#### アロマボランティアの方から一言！

まず最初に秋本病院のスタッフの皆さんと出会えたことが、とても嬉しいです。私に出来ることで患者さま、ご家族の皆さまが少しでもリラックスして笑顔になれるよう、これからも続けていきたいと思います。

大園さん

患者さま、優しいスタッフの皆さんに触れて、まさに自分がよみがえるような一時です。緩和におけるアロマやタッチのあたたかさを伝えられるよう、これからも続けていきたいです。

樋口さん



#### クリスマス・七夕コンサート

「グローバルアンサンブル」のみさんに来ていただき、夏は七夕、冬はクリスマスコンサートを毎年開催しています。最近では、コンサートの途中にマジックも披露されるなど楽しさも倍増！毎回大好評です。



#### レクリエーション

毎月2回行っており、歌や体操、カレンダー作りなど、毎回患者さまの層に合った内容にしています。写真是5行歌を趣味にされている患者さまのお部屋です。スタッフも自作の歌を飾らせていただきました。



#### ハロウィン

10月末には、このように変装したスタッフが、患者さまのお部屋を訪問しお菓子のプレゼント！「ハッピー、ハロウィン！」が合言葉です。



#### 節分

お面をつけ、「鬼は外～福は内～」のかけ声で豆まき！豆まきは何十年ぶりだろうと、目を輝かせながら鬼退治をしていただきます！

#### 夏祭り

この日は病棟フロアが屋台に大変身！綿菓子、カキ氷、ポップコーンにヨーヨー、ミニゲームなどは毎年大人気です。スタッフも、白衣の天使から浴衣美人、法被美人に早変わり。



今後も緩和ケアセンターがよりよいセンターとなるよう、新たに取り入れること、継続すること、改善が必要なことなどを見直しをおこなっていきたいと思いません。これからもどうぞ宜しくお願ひ致します。

離島の  
医師を応援!

## GENEPROの 第2回手技強化 ワークショップが 当院で行われました!



### GENEPRO(ゲネプロ)とは?

2017年4月より始まった「日本版離島へき地プログラム：Rural Generalist Program Japan」(GENEPRO)のことです。

- 総合医にとっての「メジャーリーグ」である離島へき地にて「期間限定」のトレーニングを積み、足腰のしっかりとした医師を育成する
- 実力と志を兼ね備えた医師が全国にネットワークを形成し、応援診療等、離島へき地への強力なサポート体制を構築する
- ミッションとして設立されました。

### ゲネプロのビジョン

- 1.離島・へき地で働く医師になること
- 2.離島・へき地で働く医師を育成すること
- 3.離島・へき地で働く医師を支援すること



▲オーストラリアから駆け付けてくださったデイヴィッド・キャンベル先生とタルン・セン・グプタ教授を囲んで



▲ワークショップ風景。先生方の熱い指導に、参加した研修生は皆、真剣な表情で聞き入っていました

2018年2月3～4日の2日間にわたって、GENEPRO(ゲネプロ)の「第2回手技強化ワークショップ」が行われました。今回はゲネプロ応援病院である当院を利用して、第1期6名の研修生が集まってのワークショップでした。

研修生たちは、赴任中の長崎県五島や鹿児島県徳之島から集まりました。ワークショップの皮切りは、へき地医療の整備が進む世界有数の国であるオーストラリアから、遠路はるばる駆け付けてくださったデイヴィッド・キャンベル先生とタルン・セン・グプタ教授のご両名。

オーストラリアのへき地医療の現状や、実情などについて紹介されました。その後は、へき地医療の指導医達より、内科、産科、麻酔科、CT読影、整形外科の実技を加えた熱い指導が続きました。

2日間の濃密な研修を終えた研修生の皆さんには、福岡での息抜きと指導医達から伝授された秘技を抱えて、また、厳しい離島の現場に帰つて行きました。来年もまた、当院でワークショップを実施予定です。

## スポーツにかかわること

2018年2月3～4日の2日間にわたって、GENEPRO(ゲネプロ)の「第2回手技強化ワークショップ」が行われました。私は、11年前からチームドクターとして、選手の健康管理、怪我の治療、試合会場での救護とチームにかかわってきました。今シーズンは選手の大きな怪我や花粉症対策など色々ありました。この成績でシーズン終盤を迎えるのは嬉しい限りです。

スポーツ医学が日本で注目され始めたのは1964年の東京オリンピック以後の事で、日本は意外にもまだ発展途上国です。先進国は欧州や北米で、プロスポーツの歴史が長い地域です。スポーツ医学と言うと選手の怪我を治療する整形外科を思い浮かべがちですが、実はもっとと範

盤になつてきました。本場米国ではこれからプレー・オフが始まります。今シーズンの地元プロチーム『ライジングゼファーフクオカ』は現在Bリーグの西地区首位、B2リーグでは勝率2位で、B1への昇格を睨んでいます。この号が発刊される頃には白黒がついているでしょう。私は、11年前からチームドクターとして、選手の健康管理、怪我の治療、試合会場での救護とチームにかかわってきました。今シーズンは選手の大きな怪我や花粉症対策など色々ありました。この成績でシーズン終盤を迎えるのは嬉しい限りです。

スポーツ医学の発達の顕著な例を挙げると、今の若い人たちには信じられないでしょうが、我々オジサンたちが若い頃は競技中に水を飲むことは禁止されていました。返つて疲れが出るとの理由で。また、数年前の男子フィギュアスケートの国際大会で、試合前の練習をしていた日本の男子トップ選手が他の選手とぶつかって脳震盪を起こしました。その選手は頭に包帯を巻いて試合に出場し大喝采を浴びました。脳震盪後に競技をすることは非常に危険であり、主催国のスポーツ医学のレベルが疑われた事案

院は様々なスポーツイベントを裏方で支えています。バスケットボールの1年間では福岡マラソン救護所への出動、バレー・ボールVリーグ福岡大会の救護、全日本選抜柔道体重別選手会の救護などに活動しました。秋本病院は救急医療で培ったノウハウを生かして、これからもスポーツイベントを積極的に裏方で支え、福岡のスポーツ界の隆盛を応援して行きます。



5月13日、B1リーグ昇格決定!  
5月20日、B2リーグ優勝おめでとう!



秋本院 理事長・院長  
あきもと りょういち  
秋本 亮一



私のスポーツ好きのせいで、秋本病院は様々なスポーツイベントを裏方で支えています。バスケットボールの1年間では福岡マラソン救護所への出動、バレー・ボールVリーグ福岡大会の救護、全日本選抜柔道体重別選手会の救護などに活動しました。秋本病院は救急医療で培ったノウハウを生かして、これからもスポーツイベントを積極的に裏方で支え、福岡のスポーツ界の隆盛を応援して行きます。

でした。このようにスポーツ医学そのものもまだ発展途上です。

